



陶史の森からのご案内

バードウォッチング（自由参加）
3月23日、4月27日（日）午前9時～11時
※集合場所は林泉の池堰堤

ヒツジの毛刈り
4月16日（水）午前9時から

春の妖精 — ショウジヨウバカマ —

早春から初夏にかけて陶史の森では、遊歩道の脇に「猩々袴（ショウジヨウバカマ）」が赤紫色の小さな花を咲かせます。「猩々」とは、赤毛・赤ら顔をした中国の伝説上の動物で、花を猩々の頭に見立てたという説があります。日本全土で見ることができ、山野の谷沿いの斜面や水分の多い場所に生えます。

花の色は赤紫色が多いとされていますが、場所や種類によって変わり、ピンクや紫などがあります。葉は常緑で光

沢と厚みがあり放射状に重なり合っています。その中心から高さ10cmほどの花茎を伸ばし先端に大きさ1〜2cmの集合花を横向きに咲かせます。6枚の花被片（花弁と萼片^{がくへん}）をもつ花がいくつも集まって一つの花のように見え、とてもかわいくきれいです。

花言葉は「希望」。寒い冬にも負けず、春先に咲く花らしく、希望という言葉がぴったりです。道端に咲くショウジヨウバカマ。希望は案外すぐ近くにあるのかもしれません。

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)



製陶所の様子（昭和30年代ごろ）



【十五人の陶工】
詳しくは2次元コード
からご確認ください。

第11回 『十五人の陶工—土岐の無形文化財』

土岐市の地場産業である美濃焼は、飛鳥時代の須恵器^{すゑき}に始まり、1400年の長い歴史を持っていきます。その中で育まれたさまざまな伝統技法は今もなお継承されています。

左の写真は昭和30年代ごろに撮影された、市内のとある製陶所の様子です。代々の家業として製陶業に従事してきた職人たちは、親から子へ、子から孫へと、その製陶技術をつないできました。

そして、それら伝統技法を発展させて独自の作風にまで昇華させた優れた陶工たちは、国・県・市の無形文化財として指定され、その技術と功績を顕彰されてきました。

現在、市制70周年を記念した企画展を開催しています。タイトルは「十五人の陶工—土岐の無形文化財」。本展では、土岐市が誇る15人の無形文化財保持者の作品を展示し、これからも受け継がれていくであろう陶芸の伝統と技術を紹介しています。

本展は、美濃焼伝統産業会館で5月11日（日）まで開催しています。また、4月29日火・祝には学芸員による展示解説を行います。ぜひお越しください。